



東灘区の花

梅 ものがたり



昭和61年(1986年)に梅は区の花に選定されました。

画:隅田富子

岡本の梅林

(文:中西輝夫)

今は往古のおもかげを偲ぶよすがもありませんが、大正末期頃まで西播の梅の名所としてその名を謳われ「梅は岡本 さくらは吉野 蜜柑紀の国 栗丹波」と広く世人に好まれた処で、季節には2万本の梅が咲き香りふくよかな香りがたどよい、訪れた人に愛されていたとのことです。寛政8年(1796年)頃「摂津名所図会」に岡本梅林が記載されその名を高め、益々賑わいを見る様になり、2年後山水奇観の著者、洲上旭江が景勝地として紹介、以後文人墨客(ぼっさやく)が相次いで訪れ観梅を楽しむ様になりました。

明治7年(1874年)大阪神戸間に鉄道(今のJR西日本)が開通、また明治38年(1905年)には海岸沿いに阪神電車が開業して、遠方からの観梅客で賑わいましたが、大正9年(1920年)阪急電車が山麓沿いに岡本駅を設置した頃から、風光明媚な丘陵地帯で環境に恵まれたこの地は「沿線住宅地」として開発が進み、次第に岡本梅林も作付面積が減少して昔の面影が消え「梅林」も名のみ語り草となってしまいました。



昭和57年3月、当時の神戸市長宮崎辰雄氏がこれを惜しみ在りし日の梅林の復活を願い地元有志と図り、保久良神社境内、岡本八幡神社西南に土地を求め「梅林公園」として整備、保久良梅林、岡本梅林公園と名づけ一般に公開 季節ごとに大勢の人々が花と薫りを楽しむ事が出来る様になりました。

保久良神社

(文:保久良神社 宮司)

「わー、きれい」境内西側の保久良梅林から、ひろがる歓声。2月末より春暖の中、香りを楽しむ談笑の輪、花を愛でつつ日向ぼっこに興ずる人の群れ、和む団欒の鎮守の社。「ほくらさん」と広く世に親しまれて、日々敬神愛山の道に登る保久良神社は、海拔185mで、金鳥山の中腹、古成層の天王山に鎮座し、平安期の延喜式(927年)に社名が記載された式内社であります。

当社は昭和13年(1938年)社殿改築時、出土した弥生式土器等や建物を囲む巨岩から、磐座(イワウ)、磐境(イワカ)と呼ばれる古代祭祀蹟地として認められました。祭神、須佐之男命、推根津彦命を奉斎し、中古、近世にかけ本庄荘9ヶ村の総氏神として崇敬され、神輿を社殿に飾り村民総出の姿は、江戸期の「摂津名所図会」などに、京都祇園会と同じと記載されています。

「灘の一つ火」と航海者から篤く崇拜される社頭の古石燈は、祖神の御事蹟顕彰と海上安全を祈りて北畑天王講の人々により、往古より御神火を灯しつつつけてまいりました。万世(3073)の幣(3)にと薫る梅の花と植樹された紅白梅林の繁茂と、東に生駒、南に金剛葛城、西に淡路茅渚の海を眺め、四季の情趣を境内にて清新の気を養って戴きたく存じます。

御影の天神さま

(文:網敷天満神社 宮司)

ここ東灘には、通称「御影の天神さま」と呼ばれる網敷天満神社があります。菅原道真公とのゆかりは、社伝によりますと「菅公御年42歳で讃岐の国守として下向された時に雷神の社に参拝され、天穂日命(あめのほひのみこと)の子孫であり、この地を治める山背王を訪ねられた。

また御年57歳で太宰府へ左遷の時にもお立ち寄りになり、山背王(やましろのきみ)と別れを惜しまれた。山背王は、配流の身であります菅公を案じ、石の上に綱を敷いてお迎えされた」と云われております。

梅の樹は境内に約120本あります。阪神淡路大震災で社殿を始め全ての建造物が倒壊しましたが、氏子・崇敬者の心温まるご浄財を賜り、平成9年に社殿を再建致しました。もともと梅の樹の老木は境内に10数本ありました。

社殿再建後崇敬者の皆様方が、御神域の復興と神社の隆昌を祈願して梅の樹を次々と奉納されました。

2月25日の梅花祭では、『雅楽奉納』『梅がゆ接待』を執り行い多くの参詣者で賑わっております。また、6月30日の夏越大祓では、茅の輪くぐりの後、当神社自家製の『梅酒』を飲んでいただき、元気に夏を乗り切れますようにご祈願いたしております。



国・県・区の花

日本の国花は皆様ご存じの「桜」です。梅の原産地は中国ですが、中国の国花は清朝末期に「梅」を国花と指定したこともありましたが、「花の王」牡丹になったようです。

「梅」を県花としている県は、梅の産地和歌山県、太宰府のある福岡県・大分県と大阪府です。

「市の花」は東大阪市、泉南市、天理市など、そして東灘区は、区の花に「梅」を選定しています。

福岡県県章



天理市市章



東灘区区章



みなへ町町章



文学の梅

◆ 梅は奈良時代に中国から薬効として紹介されましたが、貴族の庭に可憐な花を咲かせた梅は、万葉集で萩について多く詠まれ118首を数えます。

我妹子は うえし梅ノ木 見るごとに 心咽つつ涙し流る 大伴旅人

◆ 人々は派手に咲き散る桜に関心が移りましたが、江戸時代以降俳句の季語として多く詠まれました。ぜひ覚えて頂きたい俳句です。

今日きずば明日は散りなむ梅の花 良寛
梅一輪一輪ほどの暖かさ 服部嵐雪(芭蕉の門下生)

◆ 泉鏡花の「婦系図」主税とお薦の湯島天神湯島の白梅は舞台、映画でも有名です。他にも多くの小説の中に登場しています。読書の時、梅を楽しく探してください。

◆ 道真公は梅をこよなく愛されました。
うつくしや 紅の色なる梅の花 あこが顔にも つけたるぞある

飛梅伝説

(文:みなと総局工務第2課 竹田敦夫)

「梅」にちなむといえば「天神さま」、天神さまといえば「菅原道真」を連想しますが、菅原道真にちなんだおはなしに「飛梅伝説」があります。

藤原氏の陰謀により、都落ちして大宰府に流される菅原道真は幼いころより親しんできた紅梅殿の梅に、東風吹かば匂いおこせよ梅の花 あるじなしとて春なわすれそと詠いかけました。

あるじ(道真)を慕った梅は、道真が大宰府に着くと、一夜のうちに大宰府の道真の元に飛んできたといわれています。

これが有名な飛梅伝説ですが、大宰府天満宮のHPにはもう一話掲載されています。伊勢度会(わたらい)の社人、白太夫という人が、道真を慕って大宰府に下る折、都の道真の邸宅に立ち寄り、夫人の便りとともに庭の梅を根分けして持ってきたそうです。道真は都から取り寄せたことをふせて、「梅が飛んできた」ということになった、ともいわれています。

雲井

梅の品種「雲井」は、豊後系の豊後性に属する八重の白梅で岡本公園の栽培品種リストでは昭和57年開園の際に公園が建設された際に、皇后梅や東京茶青などと共に、大宰府天満宮よりいただき植えられています。

現在公園中央の石組階段の脇に植えられており、高さ3mあまりに生長し見上げる姿になりましたが、近年開花が少なくなったため、平成20年度より樹木医による樹勢回復治療が行われています。

2月中旬から3月上旬にかけて大きな白い八重の花が咲きますので、ぜひ見に来てください。



昭和59年(1984年)当時



阪神電車の唱歌

明治41年に阪神電車宣伝の為「汽笛一声新橋を・・・」の「鉄道唱歌」にならい、同じ作詞家大和田建樹氏で、作曲を「浦島太郎」等の作曲家田村虎蔵氏に依頼し、「阪神電車唱歌」が発表されました。その12番に「深江をすぎて青木より、八丁入りたる岡本に、春つげそめて咲く梅の花は紅白一万株」と歌われています。



梅一つ火会:

神戸市シルバーカレッジに入学し、本会の目的に賛同する東灘区に居住するメンバーが会員相互の情報共有と親睦を深めるとともに、東灘区の地域に貢献することを目的とするグループです。

詳しくは、ホームページ <http://www.us3.jp/souryu/umehitotsubikai>「梅一つ火会」で検索してください。私達は、「区の花・梅」の普及と、地域活性化に役立ちたいと願い活動し、梅の普及活動の一環として平成16年から13年間(8箇所:24本)を、梅を愛する仲間たちに協力していただきながら植樹し、

目的としていた「区の花」梅の普及啓発が軌道に乗ってきました。